



(同書簡の原文は英語。以下、FoE Japan による和訳)

2024年10月23日

Vale/PT Vale Indonesia の主要株主の皆様へ

**要請書：ソロワコニッケル事業/タナマリア鉱区における  
ロエハ・ラヤ地域のコミュニティの意見を無視せず尊重し、  
探査・採掘ありきではない対応をとるよう、PT Vale Indonesia/Vale への働きかけを**

私たちは2023年8月<sup>1</sup>からこれまで、PT Vale Indonesia (PTVI) /PT Vale Indonesia (PTVI) の親会社 Vale 社 (Vale) の主要株主の一つである皆様に対し、インドネシア南スラウェシ州東ルウ県で行われてきたソロワコニッケル開発事業における PTVI による人権侵害への加担を回避すべく、PTVI/Vale への適切なエンゲージメントを継続して求めてきました。

今年2月<sup>2</sup>以降は特に、PTVI がタナマリア鉱区において探査活動の再開、ましてや商業的採掘活動を開始できるような状況が依然整っていないことを強調してきました。具体的には、PTVI がロエハ・ラヤ地域で胡椒栽培に従事する農家や女性との適切かつ有意義で、双方向の話し合いの場を依然として持ってきていないこと、また移転と補償措置に関して Vale が遵守するとしている世界銀行グループ国際金融公社 (IFC) の「環境と社会の持続可能性に関するパフォーマンス基準」(PS) に違反する状況が複数みられることを指摘しました。

一方、Vale はこの間、2024年4月に同社ウェブサイト上の「ESG Controversies」のページに「インドネシアにおける PTVI の社会・環境影響 (PTVI Social & Environmental impacts, Indonesia)」に係る情報を掲載しました<sup>3</sup>。また同情報はつい最近にも更新されたようで、Vale Base Metals (VBM) が2023年後半に委託したコンサルタントによる調査報告書の要約 (2024年7月)<sup>4</sup>と、同コンサルタントの提言を受けての PTVI のアクションプラン (作成時期不明)<sup>5</sup>も公開されています。私たちは、透明性と責任ある企業行動を掲げる PTVI/Vale が、皆様のような株主にこれらの情報を提供しているものと確信しています。

しかしながら、私たちはここで、同アクションプランで提示されているタナマリア鉱区に係る問題の PTVI による対処方法が、問題を解決するどころか、むしろ現場での緊張感を悪化させ、対立や地域分断をより助長するものになっていることを強く非難します。コミュニティのくびとは、

<sup>1</sup> <https://foejapan.org/issue/20230818/13920/>

<sup>2</sup> <https://foejapan.org/issue/20240227/16316/>

<sup>3</sup> <https://vale.com/esg/controversies>

<sup>4</sup> <https://vale.com/documents/d/guest/ptvi-investigation-public-report--20240730>

<sup>5</sup> <https://vale.com/documents/d/guest/human-rights-commitment-and-action-plan>

開発／探査の見直しを切実に願ってきましたが、PTVIはこれらの要求に対して一向に配慮を示そうとしていません。

ロエハ・ラヤの胡椒農家や女性たちは、一貫してタナマリア鉱区における PTVI の活動に抗議の意思を示し続けてきました<sup>6</sup>。農家らの切なる願いは、自分たちの重要な生計手段である胡椒畑のあるタナマリア鉱区を PTVI が鉱業コンセッションから除外することです。こうした現地コミュニティの意思を尊重することなく行われる PTVI のいかなる活動も、社会的操業許可（Social License to Operate : SLO）のないまま行われることとなり、問題解決につながらないことは明らかです。また、PTVI のアクションプランで提示されている「土地取得・移転フレームワーク」（LARF）の策定は、たとえその内容が国際規範に沿ったものになるとしても、補償も移転も望んでいない胡椒農家らにとって解決策とはなりえません。

実際、PTVI は地域コミュニティとの適切かつ有意義な双方向の話し合いの場を依然として実現できていません。添付のロエハ・ラヤ胡椒農民団体及びロエハ・ラヤの闘う女性団体による PTVI への書簡（2024 年 10 月 14 日に PTVI に提出<sup>7</sup>）に記されているとおり、PTVI は去る 10 月 2 日にタナマリア鉱区での探査活動の再開について話し合いの場を設けたとのことですが、透明性のない閉鎖的な方法であったため、胡椒農家らの PTVI に対する不信感はますます増幅しています。

また同書簡の中で、胡椒農家と女性らは、PTVI がタナマリア鉱区でのあらゆる活動を止めること、探査活動の拠点となっているキャンプを撤去することを要求し、改めてタナマリア鉱区での探査・採掘活動を拒否すると表明しています。さらに、胡椒農家と女性らが移転や補償、「CSR」の提供を望んでいないことも明確に述べられています。

PTVI はタナマリア鉱区における探査の継続や採掘の実施を前提とした対応を早急に改めなくてはなりません。いま必要なのは、まずここに添付したロエハ・ラヤの胡椒農家や女性らの書簡で述べられている彼らの意見を正確に理解し、探査を拒否する彼らの権利を尊重した上で、開発を行わない選択肢を排除しない形での対応をとっていくことです。

これまでの繰り返しになりますが、PTVI のタナマリア鉱区における探査及び採掘活動については、ロエハ・ラヤの胡椒農家及び女性が生計手段の喪失・影響について、継続的に懸念の声をあげ、探査・採掘に対する同意の意思を示していません。したがって、彼らの要求に配慮し、PTVI の鉱業コンセッションからタナマリア鉱区を除外することを皆様からも PTVI/Vale に働きかけてください。コミュニティの慎ましやかな望みは、不安なく平和に暮らすことです。

また去る 10 月 2 日の PTVI による現地での話し合いが失敗に終わったことから、警察や軍などの関与が再び強化されることも考えられます。私たちは、PTVI/Vale の主要株主の一つである皆様が、地域コミュニティの表現の自由を含む、基本的人権の侵害に加担せぬよう、PTVI/Vale にしかるべき対応を求めるエンゲージメントを行うよう改めて要請します。

WALHI South Sulawesi

Wahana Lingkungan Hidup Indonesia (WALHI / FoE Indonesia)

<sup>6</sup> <https://walhisulsel.or.id/4354-konsisten-menolak-vale-masyarakat-blok-tanamalia-tegas-tolak-fasilitas-tambang-milik-pt-vale-indonesia/>

<sup>7</sup> <https://walhisulsel.or.id/4470-sending-letter-to-pt-vale-indonesia-apl-asks-to-vacate-nickel-mining-exploration-camp-in-tanamalia/>

国際環境 NGO FoE Japan  
アジア太平洋資料センター (PARC)

【添付資料】

- 「Pernyataan Sikap Masyarakat Loeha Raya (ロエハ・ラヤのコミュニティの意見表明)」 (2024年10月8日付) (インドネシア語原文)
- 「Statement of Position of Loeha Raya Community」 (2024年10月8日付) (英訳)

**連絡先 :**

WALHI South Sulawesi (Muhammad Al Amin, Executive Director)  
Add: JL. Aroepala, Kompleks Permata Hijau Lestari Blok Q1, No.8, Rappocini, Kota Makassar, Sulawesi Selatan 90221  
Email: muhammad.al.amien@gmail.com / walhisulsel@gmail.com  
Tel: +62-8229-3939-591

国際環境 NGO FoE Japan (担当 : 開発金融と環境チーム 波多江)  
住所: 1-21-9 Komone, Itabashi-ku, Tokyo, Japan 173-0037  
Email: [hatae@foejapan.org](mailto:hatae@foejapan.org)  
Tel: +81 3 6909 5983